問診に対する具体的な対応（医療機関様用）

項目３が「はい」の場合

①過去に中等度、重度の造影剤副作用があった場合、次回造影検査は施行しません。

②過去に軽度の造影剤副作用があった場合、造影の要否を慎重に検討する必要があります。その上で検査が必要とお考えであれば、患者に十分なIC を行った上で、ご依頼ください。

③検査前投薬として、造影剤投与の 12時間前 および 2 時間前に、

プレドニゾロン30mg の経口投与

（プレドニン服用時間は、おおよそ前日の就寝前と起床時となります）

④小牧市民病院では、造影剤の副作用歴がある患者では、別の種類の造影剤を使用しています。

⑤CT用造影剤（ヨード）とMRI造影剤（ガドリニウム）では造影剤アレルギー歴がどちらかにあっても関連性は無いので別々に扱います。

項目４が「はい」の場合

①重篤な甲状腺疾患のある患者にはヨード造影剤投与は禁忌であり、ヨード造影剤検査は出来ません。

②薬剤等により甲状腺疾患がコントロールされている場合、患者に十分な IC の上、検査が必要であれば、ご依頼ください。

項目５が「はい」の場合

①現在喘鳴があり薬物等により症状がコントロールされていない場合、造影を行いません。

②気管支喘息の症状が薬物等によりコントロールされている場合、必要に応じて前処置をして、造影を行います。

検査前投薬として、造影剤投与の 12時間前 および 2 時間前に

プレドニゾロン30mg の経口投与

（プレドニン服用時間は、おおよそ前日の就寝前と起床時となります）

③無治療、無症状が 5 年以上継続している場合、前処置なしで造影を行います。

④小児喘息の既往があっても現在治癒している場合、前処置なしで造影を行います。

項目6が「はい」の場合

①ヨード造影検査を行う場合は、腎機能評価 を行い、予約時に提出をお願いします。

・急性疾患、慢性疾患の急性増悪期、入院患者は造影剤投与前 7 日以内、

その他の患者は3 ヶ月以内に eGFR(mL/min/1.73m2、以下単位略)の測定。

②eGFR<30 の場合、原則として造影は施行しません。

③造影前に腎機能評価が得られていない場合、単純に変更することもあります。

項目7が「はい」の場合

・造影剤の慎重投与：以下の場合には慎重に投与する必要があります。

①アレルギー性鼻炎・発疹、じんましんなど、アレルギーを起こしやすい体質を有する患者

②薬剤過敏症の既往歴のある患者

③脱水症状、高血圧症、動脈硬化、糖尿病、肝機能低下、腎機能低下、急性膵炎のある

患者

④高齢者、幼児、小児

項目8が「はい」の場合

・ビグアナイド系糖尿病薬はヨード造影剤投与により一過性に腎機能が低下した場合、乳酸アシドーシスを発症するリスクとなるので休薬をしてください。

休薬期間：検査日の前後２日間（検査日を含む全５日間）

項目9が「はい」の場合

・妊婦へのヨード造影剤投与

妊婦に X 線検査が必須となった場合、ヨード造影剤は使用可能です。

妊婦にCT（X線）検査が必要となった場合、ヨード造影剤を使用して良いが、腎機能低下の恐れがあるため、出生後１週間以内に甲状腺機能検査を行う必要があります。

項目10が「はい」の場合

・造影剤の母乳への移行

造影剤使用と授乳に関しては主治医が母親に対してよく説明する。

授乳婦にヨード造影剤を投与した場合、授乳を24時間以内は行わず、母乳は捨ててください。